

SDGs 12人が研修

成田ゲーム・新聞教材に

国連が掲げるSDGs（持続可能な開発目標）を学ぶ研修が19日、成田市の菓子製造販売会社「米屋」であった。SDGs活動を担当する各部署のリーダー12人が参加。ゲームや新聞記事を通じ、貧困や環境など様々な課題の解決に向けて理解を深めた。

同社は今年度からSDGs活動に取り組む。担当する佐久間智久取締役（58）は「SDGsの理念は売り手よし、買い手よし、世間よしの『三方よし』という創業の精神に通じる。研修で社員の意識を高め、地域や取引先とも連携して活動を広げたい」と説明する。



講師は県立成田国際高校の石毛一郎教諭が務めた。2人1組となり、「お金」や「時間」を表すカードを

コメントを書き込んだ付箋を記事に貼っていく参加者＝成田市東町の米屋観光センター

使って、経済と環境、社会のバランスを考慮しながら課題を解決するゲームに挑戦。次に、この日の朝日新聞朝刊を読んで、SDGsの17の目標別の付箋を当てはまるところの記事の脇に貼りコメントを書き込んだ。

手塚真流通営業部長（47）は「カードゲームでは別のチームの悩みを聞いて目標達成を支援したことが印象

に残りました。また、同じ新聞記事を読んでも人によって意見は異なる。対話や意見交換が重要だと実感しました」と話した。（青山祥子）